

第1回バス座談会-バス利用増加へ向けた取り組み-

1. 活動報告

会場：沖縄県庁4階 講堂

日時：平成28年12月28日（水）13:30～15:30（2時間）

ゴール：①各参加者が自身のバスに関する考えを言える（縛りなく）

②現在のバス利用環境を取り巻く課題を抽出する

2. 参加者

請願者（学生）、沖縄都市モノレール（株）、バス4社：（株）琉球バス交通、那覇バス（株）、沖縄バス（株）、東陽バス（株）、沖縄県高等学校PTA 連合会、沖縄県老人クラブ連合会、沖縄県中小企業家同友会、那覇商工会議所、わった～バス党法入党員、沖縄県企画部交通政策課
（合計50名）

3. プログラム

時間	タイトル	内容
12:30	受付	
13:30	はじめに	主催者挨拶、趣旨説明
13:40	請願者からの請願に関する説明	請願内容の発表
13:50	事業説明	公共交通利用環境改善事業の説明
13:55	役割別ディスカッション	役割毎で課題について話し合う 現状起きている事/そこから浮かぶ課題/理想
14:20	合同意見交換会	各グループから数名、他のグループへ移動し課題について話し合い、システム図を作成する
15:05	共有した課題を整理する	元のグループに戻り、システム図で出た課題を共有する
15:20	今後のスケジュールについて	第二回、第三回座談会の案内
15:30	終了	

4. プログラム内容

<はじめに>

目的：主催者からの挨拶でこの場の意図を説明し、全体の流れを把握する

内容：主催者の沖縄県企画部交通政策課課長【座安 治】氏より挨拶を頂戴した。その後、司会より今回の開催趣旨について説明を行った。

結果：参加者がなぜ今回、座談会を開催し、集まった理由を理解した。また今後の座談会の方向性についても把握することができた。本日のプログラム内容についても理解した。

< 請願者からの請願内容の説明（代読） >

目的：本座談会が開催されるきっかけとなった「請願書」について説明をすることで、参加者がバス利用について考えるための頭づくり/姿勢づくりを行う。

内容：2016年8月に開催した「夏の政治キャンプ 2016」の参加者が請願したバス利用に関する請願書を司会が代読を行なった。（別紙にて添付）

結果：請願書を発表したことで、参加者が現在のバス利用における課題や請願者がどのようなことに着目したかを知ることができ、同時に考える頭づくり及び姿勢づくりができた。

< 事業説明 >

目的：現在、沖縄県がバス利用促進のためにどのような取り組みを行なっているかを共有し、参加者に理解してもらう。

内容：沖縄県企画部交通政策課陸上交通班主査の【大仲浩二】氏より、「公共交通利用環境改善事業」についての説明をスライドを用いて行なった。

結果：参加者が沖縄県の取り組みを知ることができたとともに、現在もどのような課題が残っているのかを知ることができた。

< 役割別ディスカッション >

目的：各役割が考えるバス利用における課題について意見交換し、現状課題の洗い出しを行う。

内容：参加者を「サービス利用者（一般）」「サービス利用者（法人）」「サービス補助」「サービス提供側」の4つの役割に分け、それぞれが考える課題について【実際に起きた出来事 / そこから浮かぶ課題 / あって欲しい姿】のフレームを活用し、洗い出した。

結果：最終的に以下のような課題が抽出された。

※参加者の意見から一部を抜粋

役割/項目	実際に起きた出来事	そこから浮かぶ課題	あって欲しい姿
サービス利用者（一般）	時間通りに来ない バスレーンによる渋滞 OKICA 導入で実質値上げ	世代すべてに不便 時間が読めない 乗務員の資質に問題 バス路線が分かりにくい	朝の時間に多く出す ダイヤの時間を訂正する バス料金が安くなる バスの小型化 路地まで入ってきて欲しい 学生割を作る 高齢者割を作る 乗合バスの増加 快適に過ごせる工夫
サービス利用者（法人）	マイカー増 レンタカー増 利用者の減少 運転手の対応に一貫性がない（素通りされる、チャージする時に怪訝そうな顔をされる） バスに関してどこに意見を	人手不足 資金不足 バスの運転手が乱暴な言葉遣い 時間通りに来ない（遅すぎる/早すぎる） バスのデザインがバラバラで、分かりにくい	デザインが統一されている バスナビが使い易くなる 公共サービスの提供者としての自覚をもつ バス運転手のマナーの向上（挨拶、言葉遣い） 時間通りのストレスのない通勤ができる（渋滞時間の

	<p>言っていないのか分からない 路上駐車が多く、運転が大変そう バス停が少ない 同じ市内でも乗り継ぎが必要</p>	<p>交通渋滞 乗り継ぎが多く金額が高くなる</p>	<p>予測) バス停が増える 予定通りに運行する</p>
サービス補助	<p>バス停でなくても停まってくれる 市内線で乗客が相席を拒み、車内が混み合う 全国ワーストの所得水準 大人があまりバスに乗らない 渋滞でバスが定時運行できない</p>	<p>バス利用者が右肩下がり バス案内表示、バスロケーション表示が不十分 ソフト面が不十分 親が過保護で送迎が多い</p>	<p>大学生がバスを使い出す 相席して欲しい バス料金の割引 公共交通の活性化 新たな需要喚起 バス車内でオキカ販売 徒歩やバスで登校する 案内表示に充実 コールセンターの設置</p>
サービス提供側	<p>渋滞で定時運行ができない レンタカーがバスにぶつける 外国人にバス利用について説明が難しい 2 掛けシートをひとりで独占している 南部方面路線に低床バスが少ない 利用者が多いバス停なのに屋根が設置できない</p>	<p>道が狭い バスレーン違反車 バス停での違法駐車</p>	<p>低床バス購入補助の拡大 バス運転手の判断を軽減 乗客が相席をする 利用者が 30%増える 1年に12回バスに乗って欲しい 行き先案内の充実</p>

[役割別ディスカッションの様子]



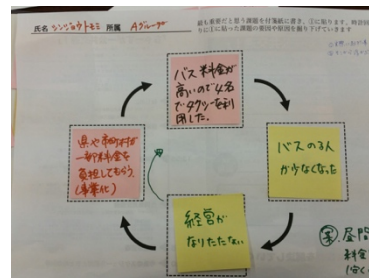
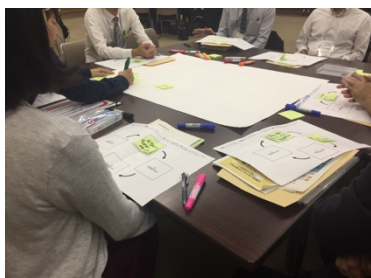
<合同意見交換会>

目的：課題の根本的な原因を探り、課題をどこから解決すべきかを発見する。

内容：役割別ディスカッションのグループから他のグループへ移動し、すべての役割が混じり合っ
て意見交換を行った。システム図を活用し、参加者が興味を持った課題を構造化し、課
題の根本的な原因について意見を交わした。(※システム図は別紙を参照)

結果：システム図を活用したことで、いくつかの課題は根本的な原因を把握することができた。
しかし、システム思考が難しく、なかなか根本的な原因にたどり着けなかった。

[合同意見交換会の様子]



<共有した課題を整理する>

目的：合同意見交換会で出た課題の根本的な原因を共有し、どのように解決できるかを考える。

内容：参加者は元の席（役割ごとの席）に戻り、合同意見交換会で話し合った内容や自身に関心のある課題の根本的な原因はなんだったかを共有した。共有後、さらにどのような課題があるか等、課題について深く掘り下げた。

結果：参加者が考えた課題の原因について知ることができたと共に他のグループでどのような話し合いが行われていたかを共有したことで、全体的話し合いの内容を把握することができた。

<今後のスケジュールの説明>

目的：今後の座談会のスケジュールを共有し、次回の参加を促す。また今後もこの話し合いが続くことを提示する。

内容：【大仲浩二】氏より第二回バス座談会（2017年2月3日）、第三回バス座談会（2017年3月13日）に開催することと、今後どのように話し合いが展開していくかを話した。

結果：今回話し合った内容が一回きりではなく、継続していくことを知ることができた。次回の日程を把握できたため、参加の意欲が向上した。（リピート率は第二回参照）

4. 成果

本座談会は第一回目という位置付けのため、参加者の日頃のバスに対する考えや意見を発散することを大きな目的としていた。結果としては、各グループが同じ立場同士でバスに対する考えを言えたと共に、合同意見交換会では様々な立場の人と話すことで、自身の考えに足りない視点や知らなかった事実を知ることができた。特に利用者とバス会社とで考えていることに違いがあることや、バス会社としても課題の改善に取り組みをしている一方で、利用者のマナーの問題や県民の自家用車利用と渋滞が原因で定時運行ができていない現状などを共有することができた。これが本座談会の最大の成果である。また、課題の根本的な原因を探るためにシステム図を活用したことで、バスの利用環境を取り巻く課題が単一的に課題が発生しているのではなく、様々な要因が重なり、複合的に課題が起きていることを全体で把握することができた。

請願者原稿

私たちは 9 月に開催された夏の政治キャンプ 2016 にて、次に挙げる 3 つの項目について請願をしました。

- 1) 公共交通利用増加へ向けた割引及び特典に関する請願
- 2) 沖縄全県を運行するバス停・案内に対する利便性の充実に関する請願
- 3) 路線バスのユニバーサルデザイン化に関する請願

私たちがこの請願を出した背景には、沖縄県における自家用車保有台数の増加と路線バス等の公共交通機関利用者数の減少に伴い、路線バスの運行維持が困難になるのではということに危惧し、請願の議題として選びました。私たちのように自家用車を保有している者は路線バスが運行停止しても、何の支障ありませんが、学生や高齢者などいわゆる交通弱者の方々にとっては大きな課題となります。

このような状況がある中、調べていくと、沖縄県の取り組みとして公共交通機関の利用環境の改善や利便性の向上、OKICA の導入など、利用者を増やすための取り組みを多く見つけることができました。しかし、それでも尚、利用者が減少しているという現状を受け、先ほど挙げた 3 つの請願を出すこととなりました。

私たちは利用が増えるために、改めて、現在の利用環境を見直し、割引や特典の付与、利便性向上につながる案内板の整備、誰にでも利用可能なユニバーサルデザインの対応などに取り組んでいただきたいと思います。

以上が私たちの請願までの経緯と趣旨になります。この度は私たちの請願を題材として取り上げていただき、このような場に発展していただいたことに大変感謝をしております。ありがとうございました。